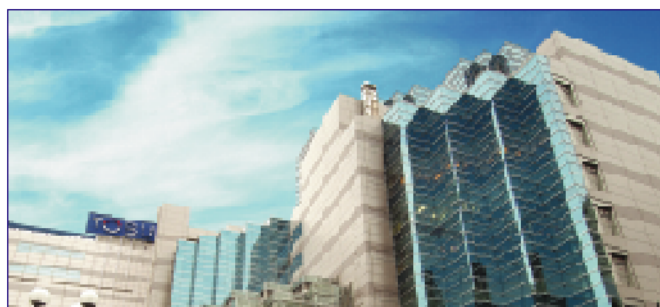


2. J-Debit導入事例紹介



TOBU

株式会社 東武百貨店

JR池袋駅周辺は古くは文京の地として栄え、現在は埼玉県をはじめとする近県への玄関口として東京北西部最大の繁華街です。そんな池袋駅西口駅ビルに店舗を構える東武百貨店池袋本店は1962年の開店以来常に業界をリード、1992年には売場面積を82,963㎡に増床し、国内最大規模を誇る百貨店です。

今回は、ICクレジット対応型POSシステムをいち早く導入された株式会社東武百貨店 営業本部販売政策部部长小林高行様、販売政策部セクションマネージャー尾杉寿之様、情報システム部プランニングエキスパート川本倂二様にお話を伺いました。

■東武百貨店とJ-Debit

首都圏(池袋・宇都宮・船橋・大田原)に店舗を構える東武百貨店のJ-Debit導入は比較的早く1999年10月で、決済手段の多様化に伴い、池袋本店にて先行導入を開始しました。現在ではJ-Debitでのお買い物件数が池袋本店で年間約80,000件を超え、東武百貨店4店を合わせると約年間130,000件を超えています。取扱高においても年間36億円以上の取引となり、今や現金・クレジットカードと肩を並べる決済手段として安定定着しています。

お客様の利用平均額は約27,000円ほどで全体的にクレジットカードより高めのお買い物にJ-Debitが利用されています。売場は化粧品や婦人服、雑貨が過半数を占めるといったデータが出ています。



■ICクレジット対応型POSシステム導入

東武百貨店は2002年以来「信用・信頼・安心」のキーワードのもと、各種取組みをしてきました。その具体策として2004年2月に店内POSシステムをICクレジット対応型に全店一斉切替を行いました。新型POSシステムは従来のPOS(親機)に加え商品の登録から各種カードの入力までの操作が可能な携帯型POS(子機)の導入が大きな特徴です。これにより会計時にお客様の面前でカードを読み取り、暗証番号の入力が完了します。

※写真(左)は池袋本店で実施した導入セレモニーの様子



■お客様の安全につながる 携帯型PIN PAD[携帯POS]

東武百貨店では特にJ-Debitやクレジットカードのご利用の多い化粧品売場をはじめ特選婦人服売場など、お客様が販売員との会話による商品選択を楽しむ「面前販売」をより強力でサポートするシステムとして全店/全売場(食品売場も含む)において、POS端末(親機)を約1,000台、携帯POS(子機)を約1,200台の導入に踏み切りました。新型POSシステムにおける携帯POSの導入に踏み切ったのは1にも2にもお客様の安全と安心のご提供にあると言っても過言ではありません。

[協議会からのお知らせ]

2004年7月9日(金)13時30分から情報処理センター連絡会を東京で開催します。会議は事務局からJ-Debitの現況報告、セキュリティ監査関連、端末認定申請の方法等の説明が行われるほか、最近関心が高まっている個人情報保護法に関する説明も行われます。また、情報処理センターの皆様から寄せられているJ-Debitに関するさまざまな課題について、意見交換がなされます。会議の詳細は次号でご報告します。